様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2013～2015
課題番号：２５５８０１３１

研究課題名（和文）英語学習版オーラルヒストリーの編纂：生涯的な外国語学習法に関する質的研究

研究課題名（英文）The Oral History of Successful EFL Learners: Qualitative Research on Lifelong Foreign Language Learning

研究代表者
寺西　雅子（那須雅子）（Teranishi, Masako　(Nasu Masako)）

岡山大学・言語教育センター・准教授

研究者番号：５０３１１０９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、オーラルヒストリーの手法を援用し、外国語学習成功者40名を対象にその学習履歴や体験に関する口述インタビューを実施した。収集した口述記録の分析結果に基づいて、日本人英語学習者にとって効果のある複数の学習法の特定に至った。
　研究成果に関しては、Palgrave Macmillanより出版されたLiterature and Language Learning in the EFL Classroom (2015)の執筆に参加し、本研究成果を世界に向けて発信できたことは大きな成果である。また国内外の学会や、学生向けの講演会等において発表し、日本の英語教育の底上げに貢献できたと考えている。

研究成果の概要（英文）：　In the current study, I have interviewed 40 successful foreign language learners and recorded their actual learning histories and experiences, by applying the theory and the method of ‘oral history’ to the research of foreign language education. Based on the qualitative analysis of narratives collected from advanced learners of English and other languages as a foreign language, this study has obtained several pedagogical implications for Japanese English learners who wish to acquire advanced level language skills most efficiently.
　I presented the result of my study not only to the researchers of English education but also to Japanese language learners including university and high school students. One of the important achievements is my contribution to a book entitled Literature and Language Learning in the EFL Classroom (2015) published by Palgrave Macmillan. I also gave presentations at domestic and international conferences, including Poetics and Linguistics Associations.

研究分野：English Education, Stylistics

キーワード：英語教育　外国語学習成功者　オーラルヒストリー　EFL　インタビュー分析　質的研究

１．研究開始当初の背景

日本の英語教育は、およそ過去 20 年間、「コミュニケーション重視」のスローガンのもと「使える英語」の習得を目指してきた。しかしながら、近年の英語教育に関する調査や英語運用能力試験の結果から判断すると、「聴く」「話す」能力が飛躍的に伸びているという報告は少なく、逆に 20 年以上前の世代が得意としていた「文法」「読解」に著しい低下傾向が見られるのが実情と言える。このように、「文法」や「読解」に重点を置くならば、実践的英語が身につかないという問題を引き起こし、その一方、「聴く」「話す」のスキルに力点を置いた結果、文法知識や語彙力が不十分となり、さらには「読解力」が低下するという「ジレンマ」があることが度々指摘されてきた。

本研究の背景として、以上のような英語教育の「ジレンマ」を解消するために、長期にわたる包括的な活動としての英語学習を検証する必要がある点が挙げられる。各教師が学生の教育を担当する期間は、１年か長くても大学在学期間の４年間という期間にすぎず、大学入学以前の英語学習の積み上げや卒業後の取り組み、また教師が指導する授業時間以外の英語学習をも総合的に考慮する重要性を常に感じてきた。そして授業アンケートなどでは全体が平均化されるため、効果的な学習法の示唆となる「成功者」の声は必ずしも反映されない。

本研究では、成果のあった教授法や学習法は、成功者との個別の対話の中にこそ見出すことができるという立場に立つ質的研究を重視し、その理論と手法を援用した。

２．研究の目的

本研究の目的は、「オーラルヒストリー」すなわち「口述履歴」の手法を用いて、「高度な外国語習得成功者」の学習履歴を記録し、考察・分析することにより、日本人の英語学習者に最適な効果的学習法を解明することである。

具体的には、外国語学習における成功者の包括的な学習履歴を記録し、調査・分析することにより、日本人の成長発達段階と英語学習の進め方との関連性及びスキル別の効果的習得法を明らかにすることを目指した。また最終的には、日本人に効果的な英語習得法を先人から学び、その成果を蓄積して広く一般公開し、多様な環境にある英語学習者に対して最も適切な英語習得法を具体的に提示することも本研究の重要な目的として掲げた。

３．研究の方法

本研究では、高度な英語力を持つ日本人及びターゲット言語が使用されていない言語環境で高度なレベルの外国語習得を達成した外国人を対象とし、「英語（外国語）学習履歴」をインタビュー形式で語ってもらい、記録した。聴き取り内容は、学習開始以前の生活環境から現在までの長期間にわたっている。インタビュー対象者は、研究代表者が参加する各学会や機関の人脈を通じて選定・依頼し、インタビューは、特別な事情を除いては研究代表者が実施した。また 3 年間にわたり収集したこのオーラルヒストリーは、分析・考察を加えて著書、ホームページ、学術論文や学会発表等を通じて、研究者・外国語学習者を中心に広く公開し、またフィードバックを求め、随時本研究に反映させ、本研究の成果の向上に努めた。

４．研究成果

本研究では、主にこれまで歴史研究分野で用いられてきたオーラルヒストリーの手法を援用し、外国語学習成功者 40 名を対象にその学習履歴や体験に関する口述インタビューを実施した。収集した口述記録の分析結果に基づいて、多読、文学作品を含む原文の精読等、日本人英語学習者にとっ

て効果のある複数の学習法の特定に至った。

本研究の研究成果に関しては、文学研究者、英語教育学者、英語教員、社会人、学生等を対象に幅広く成果発表を行った。中でも、英国の著名な出版社である Palgrave Macmillan より出版された *Literature and Language Learning in the EFL Classroom* (2015)の執筆に参加し、日本における外国語学習の成功例の研究を世界に向けて発信できたことは大きな成果と考えられる。その他にも、本研究の成果は、国内外の学会や、高校生・大学生向けの講演会等においても発表し、日本の英語教育の底上げに貢献できたと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 那須　雅子、「これからのグローバル社会を生きる：現役学生の視点から」、日本国際教養学会　*JAILA Journal Vol. 2*、76-84、査読無、特別寄稿論文、2016 年 3 月 31 日

② 那須　雅子、「「達人」の外国語学習履歴に関する質的研究：外国語学習のオーラルヒストリー分析」、日本国際教養学会 *JAILA Journal Vol. 1*、73-82、査読有、2015 年 3 月 31 日

〔学会発表〕（計 5 件）

① 那須　雅子、「外国語学習成功者のインタビュー考察」、日本国際教養学会第 5 回全国大会、2016 年 3 月 13 日、東京理科大学葛飾キャンパス（東京都葛飾区）

② 那須 雅子、「Literature and Language Learning ～文学を用いた英語教育最前線～」、公開シンポジウム、2015 年 11 月 28 日、京都大学吉田南構内（京都府京都市）

③ 那須　雅子、「オーラルヒストリーから見える「グローバル人材」の実像」、日本国際教養学会第４回全国大会ポスター発表、2015 年 3 月 14 日、岡山大学(岡山県岡山市)

④ Nasu. M, ‘A qualitative analysis of successful foreign language learners’ oral histories: To develop global human resources’, Poetics and Linguistics Association　PALA 第 34 回大会, 2015 年 7 月 18 日, ケント大学（ イギリス）

⑤ 那須　雅子、「「達人」の外国語学習に関する質的研究」、岡山英文学会第 36 回大会、2013 年 10 月 5 日、岡山大学(岡山県岡山市)

〔図書〕（計 2 件）

① M. Burke, O. Fialho, S. Zyngier, D. S. Miall, F. Hakemulder, E. Koopman, M. P. Bal, S. C. Chard, D. Peplow, O. Vassallo, A. Chesnokova, S. Liu, Z. Zhang, C. Zhang, T. Nishihara, M. Teranishi, M. Nasu, T. Janssen, M. Braaksma, D. I. Hanauer, F. Y. Liao, V. Sotirova, M. Mahlberg, P. Stockwell, V. Viana, *Scientific Approaches to Literature in Learning Environments*. (2016) Eds, M. Burke, O. Fialho, and S. Zyngier. Amsterdam: John Benjamins. 326 (169-190).

② M. Teranishi, Y. Saito, K. Wales, M. Burke, R. Carter, M. Fukaya, G. Hall, T. Ishihara, Y. Kusanagi, K. Kuze, M. Lambrou, G. Lazar, T. Nakamura, M. Nasu, T. Nishihara, S. Oku, A. Ono, A. Saito, K. Sakamoto, M. D. Sheehan, H. Sugimura, K. Takahashi, *Literature and Language Learning in the EFL Classroom*. (2015) Eds, M. Teranishi, Y. Soito and K. Wales. Basingstoke: Palgrave Macmillan. 329 (229-247).

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
寺西　雅子（那須　雅子）（TERANISHI, Masako）
岡山大学言語教育センター・准教授
研究者番号：50311098